

7月教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和6年7月31日（水） 午後2時15分～午後4時38分
- 2 場 所 湖西市役所 市長公室
- 3 出席者 教育長 松山 淳
委員 袴田 雄司 西川 倫予 菅沼 泰久 山下 恵子
事務局 教育次長 (鈴木啓二) 教育総務課長 (戸田昌宏)
学校教育課長 (黒柳孝江) 幼児教育課長 (岡部考伸)
スポーツ・生涯学習課長 (竹中幹晴) 図書館長 (菅沼 稔)
教育総務課長代理(仲本真武) 学校教育課主任主査(三島昌美)
学校教育課主任主査(清水亮二)
説明員 選定委員会委員長(鈴木聖慈) 「国語・書写」説明員 (松井麻紀子)
「地理・歴史・公民・ (齊藤 勝)
地図」説明員 「数学」説明員 (藤井英樹)
「理科」説明員 (石田 隆) 「音楽」説明員 (黒柳和之)
「美術」説明員 (森本伸二) 「技術・家庭」説明員(豊田剛士)
「保健体育」説明員(高邑和樹) 「外国語」説明員(宮下智亘)
「道徳」説明員 (戸田美雪)
- 4 報 告 第22号 湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱又は任命について
第23号 湖西市学校支援地域本部運営委員の委嘱又は任命について
- 5 議 案 第13号 令和7年度湖西市立中学校において使用する教科用図書
の採択について
第14号 教育委員の辞職の同意について(追加議案)

午後 2 時15分開会

(松山教育長) 出席は 5 名、定足数に達しているので、令和 6 年 7 月湖西市教育委員会定例会を開会する。

(松山教育長) それでは審議に入る。
報告第22号「湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱又は任命について」、事務局の説明を求める。

(スポーツ・生涯学習課長) 報告第22号「湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱又は任命について」、湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員会設置要綱（平成19年湖西市教育委員会告示第21号）第3条の規定により、下記の者を湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員会委員に委嘱又は任命したので報告する。令和 6 年 7 月 31 日提出 湖西市教育委員会 教育長 松山 淳。

委員会は、湖西市放課後子どもプラン推進事業運営委員会設置要綱に基づき、委員 15 人以内で組織されている。委員は、要綱第 3 条第 2 項に規定されている者をもって構成され、放課後対策事業の総合的な推進を図ることを目的として設置される。放課後子ども教室と放課後児童クラブの現状など共通認識をもち、双方の一層の連携強化を図るよう務めている。今回委嘱又は任命した委員は 9 人で、任期は令和 6 年 7 月 1 日から令和 8 年 6 月 30 日までの 2 カ年である。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(松山教育長) 続いて、報告第23号「湖西市学校支援地域本部運営委員の委嘱又は任命について」、事務局の説明を求める。

(スポーツ・生涯学習課長) 報告第31号「湖西市学校支援地域本部運営委員の委嘱又は任命について」、湖西市学校支援地域本部設置要綱（平成24年湖西市教育委員会告示第6号）第4条の規定により、下記の者を湖西市学校支援地域本部運営委員会委員に委嘱又は任命したので報告する。令和 6 年 7 月 31 日提出 湖西市教育委員会 教育長 松山 淳。

委員会は、湖西市学校支援地域本部設置要綱に基づき、要綱第 4 条第 2 項に規定されている者をもって構成され、学校支援地域本部の推進を図ることを目的として設置される。学校支援地域本部では、学校活動に地域が参画・協力し、支援することを促進するため、地域支援コーディネーターを中心に、双方の一層の連携強化を図るよう務めている。今回委嘱又は任命した委員は 6 人で、任期は令和 6 年 7 月 1 日から令和 8 年 6 月 30 日までの 2 カ年であり、6 人全員が新任の委員である。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) 6 人全員が新任ということで変わられますが、流れというかこういうふうにやっていくんだよというような経験されて方がこの中にいらっしゃるのか、もしくは誰かがコーディネーターとして入られるのですか。

(スポーツ・生涯学習課長) 基本的には地域コーディネーター代表が中心となってやっていくが、委員には保育士としての専門的知識をもった方などを当てている。

(袴田委員) 前年からいきなりコロッと変わられるので、その引継ぎはどこかのタイミングでやられるのですか。

(スポーツ・生涯学習課長) 委員に関しては引継ぎは行っていない。

(袴田委員) 毎年変わられていくと思うのですが、そのあたりの連携はどうなっていますか。

(スポーツ・生涯学習課長) 新旧の委員同士の引継ぎはないが、新任の委員に対しては事務局から説明をしている。

(菅沼委員) 委員会の活動報告とか活動内容を報告する機会などはあるのでしょうか。

(スポーツ・生涯学習課長) 地域コーディネーターから今年度の報告を受け、地域の委員がその内容を共有し、助言などを行っている。

(松山教育長) 各学校に地域コーディネーターを置いており、その活動を運営委員会で報告し、設置要綱第 4 条の役割を行っている。この運営委員会の協議内容を公開しているかという質問でよいか。

(菅沼委員) 市民はまったく分からないので、こういった活動をしているか知りたかったです。

(スポーツ・生涯学習課長) 会議は公開で開催しており、会議録はウェブサイトで公開している。

(松山教育長) 続きまして、議案第13号「令和7年度湖西市立中学校において使用する教科用図書の採択について」だが、この議案審議に入る前に、本議案の審議を公開することによって、教科用図書の採択期限である8月31日前に情報が漏れるおそれ及び各委員の率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定及び湖西市教育委員会会議規則第14条第1項ただし書の規定により、本議案の審議につきましては非公開としたいと思うが、これにご異議はないか。

(異議なし)

(松山教育長) 異議なしと認め、本議案の審議については非公開に決定した。

(傍聴者退席)

(松山教育長) それでは、審議に入る。

議案第13号「令和7年度湖西市立中学校において使用する教科用図書の採択について」、事務局の説明を求める。

(学校教育課長) 議案第13号「令和7年度湖西市立中学校において使用する教科用図書の採択について」、湖西市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則(昭和31年湖西市教育委員会規則第5号)第2条第1項第15号の規定により、令和7年度湖西市立中学校において使用する教科用図書を別冊のとおり採択したいので承認を求める。令和6年7月31日提出 湖西市教育委員会教育長 松山淳。

湖西地区では、静岡県の基本方針に沿い「教科用図書選定委員会」及び「教科書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。選定委員会の委員には、湖西市小中学校PTA連絡会の会長ならびに理事、湖西市校長会会長、校長会代表、学識経験者の5名を委嘱した。

6月11日から3回の湖西地区教科書研究委員会を開催し、7月22日に行われた第2回湖西地区教科用図書選定委員会では、研究委員会からの調査報告を受け、採択案をまとめさせていただいた。

本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和7年度から使用する教科書を決定していただきたいと思う。

なお、本日の決定事項につきましては、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。以上。

(松山教育長) ここでお諮りする。

教科用図書採択の採決については、種目ごとに調査研究報告、質疑、採択を行いたい、これに異議はないか。

(異議なし)

(松山教育長) 異議なしと認め、種目ごとに調査研究報告、質疑、採択を行うこととする。また、事務局から、教科の調査研究に関する報告を行うため、湖西地区教科用図書選定委員会委員長、説明員及び補助員の入室の許可について申出があった。これを許可することに異議はないか。

(異議なし)

(松山教育長) 異議なしと認め、選定委員会委員長、説明員及び補助員の入室を許可することとする。説明員の準備があるので、しばらくお待ちいただく。

(説明員入室・準備)

(松山教育長) それでは、まず、湖西地区教科用図書選定委員会の経過について、委員長である鷺津小学校の鈴木校長に報告を求める。

(選定委員会委員長) 6月3日に第1回湖西地区教科用図書選定委員会を開催した。採択の流れや調査研究の観点などについて確認をした。委員は、学識経験者として元湖西市教育委員会教育委員の佐原陽子様、保護者代表として湖西市小中学校PTA連絡会会長の永田晴康様、岡崎中学校PTA会長の鈴木誓子様、校長会代表・新居中の鈴木康弘校長と私の5名である。7月22日には、第2回湖西地区教科用図書選定委員会を開催し、代表者から調査研究報告を受け、採択案について協議をした。採択案については、お手元の資料5ページにまとめてある。ご審議をよろしくお願いする。

(松山教育長) 続いて、教科用図書の採択に関する全体的な説明を、事務局にお願いする。

(学校教育課主任主査(三島)) 別冊の1ページ、資料1をご覧いただきたい。小中学校で使用する教科書は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条とその施行令により、4年間同一のものを採択することとなっている。採択の流れについては、次に2ページの資料2について。静岡県は11の採択地区に分かれており、湖西地区はその一つとなっている。湖西地区では、「静岡県教科用図書の採択指導の基本方針」に沿い「湖西地区教科用図書選定委員会」及び「湖西地区教科書研究委員会」を立ち上げ、4ページの資料3のような流れで、調査研究を行ってきた。本日は選定委員会での採択案をもとに御審議いただき、令和7年度から使用する中学校の教科書を決定していただきたい。よろしくお願いする。以上。

(松山教育長) これまでの報告及び説明について、質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(松山教育長) それでは、続いて各種目の代表者から調査研究の報告をしていただく。国語の報告を求める。

(「国語」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「光村図書」が最もふさわしいとの判断をした。理由については、第一に、すべての学習活動において、学習指導要領で示されている、「語感を磨き、語彙を豊かにする」ための工夫がされている点が挙げられる。例えば、40ページ、90ページのように、単元の間にある「季節のしおり」の詩歌、267ページからの「語彙ブック」など、多くの言葉に触れる機会がもてるよう工夫されている。また、69ページ「言葉の力」など言葉そのものへの思考を深められる教材が多く、語彙を広げ、豊かな言語感覚を養うことができる内容となっている。第二に、様々な言語活動を設定し、生活の中で生きてはたらく情報活用能力を養う工夫がされている点が挙げられる。例えば、「思考のレッスン」として、130ページ「根拠の吟味」、180ページ「具体と抽象」、「情報整理のレッスン」として、52ページ「思考の視覚化」など、教材を使った学習で習得した力を、これらを用いて理解を深め、132ページからの書く活動へつなげられている。また、巻頭の9、10ページには「思考の地図」という様々な場面で使える思考ツールが紹介されており、場面や目的に応じて生徒が主体的に活用できるように構成されている。さらに、76ページのように、各学年にはSDGsを題材とした情報活用能力を養う教材が配置され、社会へと視野を広げ、生徒の実生活や将来に生きる情報活用の方法が学べる工夫がされている。

なお、東京書籍については、3年間で「言葉の力」が積みあがるように教材が配置されているという意見があった。特に、「学びを支える言葉の力」として、46ページ「対話の学び」、94ページ「文学の学び」、112ページ「情報と論理の学び」を関連の深い領域の教材の前後に配置することで、身に付けたい力を明確にし、学びを日常生活に生かすことができるように工夫されている。

三省堂については、巻頭の16～20ページ「思考の方法」で紹介されている様々な思考ツールを用いることで、生徒が考える糸口や進め方を見つけ、主体的に学習に取り組むことができるようになっている。また、38ページにあるように、各学年にグループディスカッションを位置づけることで、言語活動を螺旋的に設定し、自己の学習を振り返りながら内容や活動の質を協働的に高めていけるような工夫がされている。

教育出版については、各教材文や活動の前にある22ページ「学びナビ」で「何を学ぶか」を確認し、教材で学んだ後は、36ページ「みちしるべ」の「読み深めよう」「自分の考えを伝え合おう」を活用し、定着を図る構成になっている。また、文章教材は、86ページのSNSや3年生の教材のAIなど、現代の課題について考える教材が多く配置されている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(菅沼委員) 湖西では昔から「光村図書」を使っているのか。

(「国語」説明員) 特に、これと言って決まっているわけではなく、毎回採択の年ごとに選んでいる。

(菅沼委員) 教科書によって手触りが違うが、それも加味しているのか。

(「国語」説明員) 加味している。

(袴田委員) 先生としては、光村図書が教えやすいというのはあるのか。

(「国語」説明員) 慣れというのも多少はあるが、内容をみたとき、いろいろな工夫があり、特に、語彙について深く追究されている教科書だと感じる。

(菅沼委員) 教科書の教材や内容については、こうやって教えなさいという決まりはあるのか。

(「国語」説明員) 学習指導書があるが、あくまでも学習指導要領で定められている教科で身につけたい力をもとに、先生方でいろいろ工夫しながら指導している。学習指導書通りに教えるわけではない。

(菅沼委員) 三省堂は、現代風の教材が多いように思う。

(「国語」説明員) 子どもたちが興味をもつ工夫がされていると感じる。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて書写について報告を求める。

(「書写」説明員) 国語と同様、研究報告書をもとに、報告と検討を行った結果、

「光村図書」が最もふさわしいと判断した。理由については、第一に、文字の特徴や書き方のポイントを観察や相互比較を通して主体的に考えることができるように工夫されている点である。66、67ページをご覧いただきたい。各教材に「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習の流れが設定されており、生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。また、68、69ページにあるように、教材文字の横に朱墨の分解文字を添えることで、視覚的に書き方のポイントを確認しながら練習できるようになっている。第二に、「書写ブック」という硬筆練習帳が教科書に付いており、取り外して使えるように工夫されている点が挙げられる。表紙の次のページをご覧いただきたい。毛筆の学習を生かして硬筆で書くという活動がしやすくなり、繰り返し学ぶことで毛筆の学習を定着させることができるようになっている。「毛筆を使用する書写の指導が、硬筆による書写の能力の基礎を養う」という「学習指導要領における内容についての配慮事項」が意識されている。

なお、東京書籍については、46ページをご覧いただきたい。単元のポイントが「書写のかぎ」として提示されていることで、目標を意識して練習できるように工夫されている。また、60、61ページには、日常生活の中で活かされる書写の例や言語活動が多く提示されており、実生活とのつながりがイメージしやすくなっている。

三省堂については、46ページ、「書き方を学ぼう」のページで具体的な書き方のポイントを言葉と図で分かりやすく解説している。この「書き方を学ぼう」を用いて毛筆で書いて習得したことを、50ページからの「書いて身につけよう」で硬筆による書き込みで練習し、さらに、64ページの「やってみよう」の書写を生かした表現活動につなげるよう意識されている。教育出版では、教科書の形状・大きさがA B版になっているため、ワイドな紙面を生かして、見開き完結型で教材文字とポイントが一度に見られるという意見があった。42ページをご覧いただきたい。行書の筆遣いの準備として螺旋を書く練習を取り入れたり、穂先の通り道や力の入れ具合がわかりやすく説明されていたりと、行書に対する抵抗感を少なくするよう工夫されている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(西川委員) 湖西で国語の教科書と同じ出版社の方がよいという決まりはあるのか。

(「書写」説明員) 特に合わせなくてもよいが、中には、国語の教科書に載っている教材が、硬筆の練習で書写に載っていることもあるので、合っていることでメリットはあるのではないかと。

(西川委員) 「書写ブック」は取り外せてよいが、生徒が小さくないか心配である。
(「書写」説明員) 教科書も3年間使用するので、声掛けをして注意を促したい。
(西川委員) イメージしていた書写の教科書より楽しそうである。自分の学生のころとは違う。漫画が載っていて取り組みやすそうだ。
(袴田委員) サイズ感について、教育出版だけ違うが、そこは問題になったか。
(「書写」説明員) 特に問題にはならなかった。国語でもサイズが違うものもある。
(西川委員) 書写の授業は年間どれくらいあるのか。
(「書写」説明員) 中学1・2年生は140時間、3年生は、105時間の国語の授業の中に含まれる。年間で20時間ほどである。
(袴田委員) 携帯電話やパソコンが普及し、字を正しく書けない子や、読みにくい字を書く子が増えていると思う。書写の授業や国語の授業でがんばってもらいたい。
(松山教育長) 他に質疑がなければ、書写の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、書写の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて社会・地理的分野の報告を求める。
(「社会・地理的分野」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行った。その結果4社の中で「帝国書院」が最もふさわしいと判断をした。理由としては、まず、5～10ページにあるように、学び方や資料、デジタルコンテンツの活用方法、地理的な見方や考え方、思考ツールや地図帳の活用などを丁寧に説明している。生徒が教科書をどのように活用したらよいか分かりやすく、主体的に学習を進められるようになっている。また、66ページにあるように、各節のはじめに「問い」を示すことで単元全体の学習の見通しをもたせ、見開きごと(1時間ごと)の学習課題と関連させている。学習の振り返りが2ページにわたって構成され、内容が整理され分かりやすくなっている。デジタルコンテンツも充実しており、関心を高めるための写真資料や図解アニメーション、学びを深めるための用語解説や思考ツール、統計資料、ジオグラフなどが単元別に豊富に準備されている。
東京書籍は、教科書の巻頭に「地図を学ぶ5つのミカタ」が示され、学習過程において重要となる視点を掲げることにより、学習全体を通して地理的な見方や考え方を身につけられるように工夫されている。
教育出版は、各章の終わりに「学習のまとめと表現」のページが設けられ、学習内容を振り返り、基礎・基本の定着が図られるように工夫されている。
日本文教出版は、「どのように学ぶのか」を明確にするため、生徒自らが単元を貫く問いを立て、学習の見通しをもてるような構成になっており、主体的な学習を通して学びが深まるような工夫がされている。
以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。
(袴田委員) 今回選定された教科書と現在使用している教科書を比較して違いはどこか。
(「社会・地理的分野」説明員) 一番大きく変わった点はデジタルコンテンツの充実ではないか。GIGAスクール構想によって1人1台端末が、各社が工夫し、教科書内に二次元コードを記載した。ただし、そのコンテンツの中身は各社に違いがあり、既存の動画につながるものもあれば、ワークシートにつながるものもある。その中で帝国書院は、独自のコンテンツがあった。統計資料、写真資料も豊富で、それらを教室のモニターに大きく映し出すこともできる。選定委員からは、これまで教科書の補助教材として資料集を使用していたが、今後は教科書とこのデジタルコンテンツで学習ができるのではないかという意見もあった。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、社会・地理的分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、社会・地理的分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて社会・歴史的分野について報告を求める。

(「社会・歴史的分野」説明員) 選定委員会において、9社の教科書の中で「帝国書院」が最もふさわしいと判断した。理由としては、まず巻頭5～9ページにあるように学び方や資料、デジタルコンテンツの活用方法、歴史的な見方や考え方、思考ツールや学ぶ意義などを丁寧に説明し、生徒が教科書をどのように活用したらよいか分かりやすく、主体的に学習を進めやすくなっている。次に、26・27ページの「タイムトラベル」のように、各節のはじめに、イラストで時代のイメージ図を示し、各時代の特徴や時代の変化を大観し、学習の見通しをもたせるよう工夫されている。また、28ページのように各節のはじめに「問い」を示すことで単元全体の学習の見通しをもたせ、1時間ごとの学習課題と関連させている。また、34ページのように、思考を深めるための「アクティブ歴史」や「技能をみがく」等のコンテンツがあり、二次元コードでデジタルコンテンツともつながっている。デジタルコンテンツは豊富な資料とリンク集等が分かりやすく表示され、使いやすさと学びを深めるための工夫がされている。

東京書籍は、各章の中で、「問いを立てる」「検証する」「解決する」という流れが一貫されており、思考ツールを用いた学習活動の例も多数掲載されており、論理的に課題を解決できるように工夫されている。

教育出版は、タイムスケールがタイトルの上部に示されており、歴史の大きな流れと関連づけることができるよう、工夫されている。

山川出版は、歴史的な事象を本文でなるべく詳細に触れられるよう工夫されており、より発展的な学習活動が期待できる分量となっている。

日本文教出版は、見開きで見やすいページ構成となっている。各章の中で、「問いを立て、見通す」「追究する」「まとめる、ふりかえる」という流れが一貫されている。

自由社は、歴史上の人物や、当時の人々の思想、生活感覚を元に学習をしていく構成となっており、「外の目から見た日本」では、歴史的な事象について、外国から見た視点を意識して捉えることができるように工夫されている。

育鵬社は、「鳥の視点」のような、マクロ的アプローチと「虫の視点」のようなミクロ的アプローチで各単元の導入部が構成されており、歴史を大観する、資料から社会的な見方・考え方を働かせる学びが可能となるように工夫されている。

学び舎は、導入部において、世界地図から各国の当時の様子を示し、人類の姿を遺跡や出土品から考察する構成となっており、人間に焦点を当てた学習活動が系統的に行われるよう工夫されている。大判なので、教科書に書き込みがしやすい。

令和書籍は、原始から現代の捉え方が、「政治」・「外交」・「文化」・「産業」という視点で共通しており、また、学習した内容と自分が住んでいる地域がどのような関りがあるか、興味をもって調査することができるように工夫されている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(菅沼委員) 学び舎の「人間の歴史」を選ばなかった理由は。

(「社会・歴史的分野」説明員) 小学校では地域の歴史から国のことを学び、中学に入って日本を意識しつつ世界との関わりを学んでいくという系統的な流れがある。その流れの中で学んできた子どもたちにとって、令和書籍の教科書はどのようなのかという研究委員の意見があった。また、タブレットを活用しながら学習が一般化されているが、令和書籍の教科書にはデジタルコンテンツがない点も選定しなかった理由である。

(袴田委員) 社会科は地図帳まで帝国書院を採択しているが、出版社がそろっていた方が先生たちは教えやすいのか。

(「社会・歴史的分野」説明員) 子どもたちは教科書を資料として課題を解決する学習をしている。昔のように教科書の内容を詰め込むような学習はしていない。そうした学習の中で教科書を読み、デジタルコンテンツを利用しながら学習する子どもたちにとって扱いやすいものが帝国書院の教科書であった。あくまでも子どもたちが学びやすい点が選定の理由である。

(西川委員) 教科書にはテキストや用語集といった覚えたほうがよいもの、他に試験の前に確認するような資料が附随しているのか。

(「社会・歴史的分野」説明員) ついていない。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、社会・歴史的分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、社会・歴史的分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて社会・公民的分野について報告を求める。

(「社会・公民的分野」説明員) 選定委員会において、6社の教科書の中で「帝国書院」が最もふさわしいと判断した。帝国書院は、巻頭1～2ページで、SDGsとの関連を示しており、学んだことをどう生かすかのイメージがしやすい。巻頭5～9ページでは、学び方や資料、デジタルコンテンツの活用方法、現代社会の見方や考え方、思考ツールや学ぶ意義などを丁寧に説明し、生徒が教科書をどのように活用したらよいか分かりやすく、主体的に学習を進めやすくなっている。また、節のはじめに「問い」が示され、イラストをもとに具体的な活動を通して思考力や判断力を高められるように構成されている。振り返りでは、「問い」ごとに整理してまとめたり、思考ツールを用いて整理したりできるように工夫されている。デジタルコンテンツも充実しており、図解アニメーションや統計資料、学び方ツールなどの独自資料が、生徒の思考に沿って活用できるように準備されており、扱いやすい内容となっている。

東京書籍は、導入のページが充実しており、生徒が学びたい問いや課題を見出しやすくなっている。また、身に付けたい力を確認しながら学ぶことができるように構成されている。

教育出版は、章ごとに「学習のはじめに」が設定されており、その中に学習の見通しや見方・考え方も示されているので、生徒が考えたい問いや課題を見つけやすくなるように工夫されている。

日本文教出版は、現代社会とのつながりを題材にしている問いや資料が示されており、生徒が学んでみたいと思うような工夫がされている。

自由社は、学習内容の要点などが示され、基礎的な知識の習得がしやすい内容である。ワークシートが掲載され、生徒が自分の考えをまとめたり、対話を通して深めたりしやすいように工夫されている。

育鵬社は、サブスクリプションなど、中学生などの若者に関心の高い話題に焦点を当てた題材選びがされ、学習も学習課題を解決していく中で学びを深めていくような、問題解決型の構成となっている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(菅沼委員) 私の知り合いの市議会議員が議員になったきっかけは、中学校での公民の授業だった。授業の中で若い人たちが政治に関心をもつ機会になるとよいと感じた。

(「社会・公民的分野」説明員) 生徒の身近なところ、関心の高いところを教材にして学習を深めていくことは大事なことだと考えている。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、社会・公民的分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、社会・公民的分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて社会・地図について報告を求める。

(「社会・地図」説明員) 選定委員会において、2社のうち「帝国書院」がふさわしいと判断をした。帝国書院は、全体的に鮮やか色彩であり、資料内の地形や土地利用の違いが明確に読み取れるよう工夫されている。また、自然地理だけでなく、159ページから162ページの「防災」や173ページの「歴史(世界遺産)」の視点からも分かりやすく読み取ることができるようになっており、現代社会の諸課題と関連させ、SDGsをテーマにした主題学習にも活用できるように工夫されている。また、二次元コードを活用したコンテンツが充実しており、小学校の振り返りやSDGsに関すること、

統計資料やジオグラフ、地域別資料等が視覚的にわかりやすく掲載され、主体的で深い学びが実現できるよう工夫されている。

東京書籍は、全体に落ち着いた配色でデザインされている。各ページに、地図や資料の読み取りの視点（Bee's Eye）が示され、学習課題としての活用も可能な構成となっており、また資料同士が連携するよう工夫されている。
以上。

（松山教育長） 質疑のある方は発言をするように。

（質疑なし）

（松山教育長） 質疑がなければ、社会・地図の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

（挙手全員）

（松山教育長） 挙手全員である。よって、社会・地図の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。ここで、休憩を入れさせていただく。再開は、午後3時30分からとする。

午後3時24分休憩

午後3時30分再開

（松山教育長） 休憩を解いて、会議を再開する。引き続いて、数学について報告を求める。

（「数学」説明員） 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「教育出版」が最もふさわしいと判断した。まず、24、25ページをご覧いただきたい。導入「Let's Try」では、キャラクターの対話を通して、これから学習する内容に関心意欲を高めるよう工夫されている。各章の冒頭の「学習をする前に」や、クエスチョンや例の側注にある「もどって確認」では、既習内容や重要事項の学び直しや確認をした後、学習を始めることができる。79ページのように「例題・例」→「たしかめ」→「問」のように、スモールステップの流れで統一されており、知識・技能の確実な定着を図ることができる。125、126ページのような「学習のプロセス」が随所にあり、数学的に問題を解決する流れを示すことで、生徒が論理的に学習活動を進めることができる。また、「友だちの考えを知ろう」「話し合ってみよう」など、対話的に問題解決ができるよう工夫されている。次に、他社の教科書について説明する。

東京書籍である。57、58ページをご覧いただきたい。「深い学び」は各所に設定されているが、巻頭の「大切にしたい数学の学び方」の流れに沿って、主体的な学びにつなげることができるよう工夫されている。また、66ページの考えてみようのように、①②③のスモールステップにより、学習内容の理解を自力で図るようにしている。

次に、大日本図書である。78、79ページをご覧いただきたい。活動または例、問いという配列で、学習内容の理解を図ることができるようになっている。また、章末問題の「○章をふり返ろう」、「力をのばそう」では、基本的から発展的までの内容にふれるとともに、章の達成度を自己評価することができるようになっている。

学校図書である。85ページをご覧いただきたい。各章の「利用」で扱っている「数学的活動」では、キャラクターが学習内容を確認し、問題解決をするための思考の手順と学習の進め方が提示され、対話的な学習ができるように工夫されている。章末の「～を学んで」では、学習のふりかえりを自己評価することで、学習の理解度を確認できるようになっている。

次に、啓林館である。135ページをご覧いただきたい。随所に「話しあおう」「説明しよう」「まとめよう」を配置し、言語活動を充実させながら、学びを進めていくようにしていることから、対話的・協働的な学びを重視していることがうかがえる。多くの「例」「例題」「問」を配置し、知識・技能を確実に身に付けることができるような構成となっている。

次に、数研出版である。28ページをご覧いただきたい。キャラクターの会話において、疑問や問いかけ、授業の流れや様々な問いやヒントを示すことで、生徒が主体的に学びを進められるよう促している。裏表紙の「学びの自己評価」では、数学を学ぶ上で身に付けたい力が具体的にわかりやすく明記されている。

最後に、日本文教出版である。12, 13ページをご覧いただきたい。導入では、見開き2ページを使って課題が提示され、この章で何を学ぶのか、学習の見通しを立てられるようにしている。巻末の「ふり返しシート」や「対話シート」を使って、学びをふり返しながらか、対話的な学びの充実を図るよう工夫されている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(西川委員) 前回と出版社をかえる理由は。

(「数学」説明員) 現在の生徒の実態から、学力の二極化が課題となっている。教育出版の教科書には「学びのマップ」があり、既習事項の振り返りができ、参照すべきページも記されており、学び直しがしやすい点の特徴である。さらに、スモールステップを踏むことによって基礎学力の確実な定着を図ることができ、基本的・応用的な問題も豊富にあり、学力と学習意欲の向上につながれると考え、教育出版の教科書を選定した。

(西川委員) 教科書の問題を自分で解いてみたときに、わからないところを戻ってやってみると、教育出版の教科書がわかりやすかった。

(菅沼委員) 数学は論理的思考を習得することが重要で、教育出版のものは学びのプロセスがあってよいと感じた。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、数学の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、数学の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、理科について報告を求める。

(「理科」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、東京書籍が最適と判断した。東京書籍は、理科の苦手な子、得意な子にとっても、理科を主体的に学んでいくことができるように多くの点で配慮されているのが特徴である。内容面では、写真や図が多く、知識を正確に理解できるように工夫されている。211ページの天体の1年の動きでは、図2「地球の公転と季節による星座の位置の移り変わり」を太陽、地球、黄道12星座の位置を示すとともに、図1、図2、図4を用いて、地球の公転によって、季節によって見える星座が変わることを説明している。また、210ページの「シュミレーション」と記載された二次元コードのコンテンツでは、「地球の公転による星座の変化」を見たい月、時刻を設定すると観測者から観測できる星座の位置と、太陽、地球、観測者、黄道12星座の位置をモデルで示しており、空間認知が苦手な生徒にとって、理解を促すために質の高い学習教材になっている。また、各単元、各章のはじめに「スタート動画」が用意されているだけでなく、「レットスタート!」では、問題発見につながるヒントが示されている。これは、理科が苦手な生徒であっても、「なぜだろう」と探究したくなる支援となる。

大日本図書の大きな特徴は、観察・実験が生徒にとって取り組みやすく、生徒の思考の流れを大切に、構成されているため、科学的に探究する力の育成に優れている点が挙げられる。しかし、今回の教科書は、令和2年度に採択された現行の教科書と全く同じ教科書であるため、他者の教科書が二次元コードでWEBにアクセスできるコンテンツが多くなっていることと比べると、二次元コードの記載が少ない。

学校図書は、写真や図を効果的に用いて、できるだけ簡潔に、分かりやすくまとめられており、基礎・基本の確実な定着を図ることができるように工夫されている。すべてのページに二次元コードが示され、関連する動画等を視聴することができるようになっており、学習内容の理解を促すように工夫されている。

教育出版は、文字が大きくて見やすく、説明も簡潔で読みやすいことが特徴である。視覚から入る情報を大事にしており、理科が苦手な生徒も学習内容を理解しやすいように工夫されている。実験結果の表やグラフを直接教科書に書きこめるようになっており、教科書を使って実験をまとめていくことができるようになってきている。

啓林館は、単元を通して、子どもの「なぜ、どうして」の気持ちを揺さぶり、探究活動が充実するように工夫されており、学びを深めることができるように配慮されている。章の課題を日常生活の場面で必要に迫られたパフォーマンス課題として提示している。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(松山教育長) 質疑がなければ、理科の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、理科の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、音楽一般・器楽合奏について報告を求める。
(「音楽一般・器楽合奏」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「教育芸術社」がふさわしいと判断した。理由については、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めるのにふさわしい教科書だと考えられるからである。音楽一般の18ページ19ページをご覧いただきたい。二次元コードの読み込みでワークシートをダウンロードできる。また、ピアノの伴奏やパート別音源も読み込んで簡単に聴くことができるので、生徒が繰り返し練習することが可能である。8ページ9ページをご覧いただきたい。「学びの地図」のページには生徒が各教材を通して音楽科で身に付けられる資質・能力、音楽を形づくっている要素が一目で分かるようになっており、学習内容が確認できるため、見通しをもって活動に取り組むことができる。36ページ、37ページをご覧いただきたい。鑑賞教材では複数の曲の中から個々の興味・関心に応じたものを選択でき、個別最適な学びの実現につながっている。また、複数の音楽を相違点や共通点を比較したり関連付けたりし、音楽の多様性を理解できるよう工夫されている。

器楽合奏の14ページ、15ページをご覧いただきたい。ソプラノリコーダーとアルトリコーダーで同じ運指を活用した楽譜が掲載されている。アルトリコーダーの導入期において、ソプラノリコーダーからの持ち替えに抵抗が少なくなることが期待できる。68ページをご覧いただきたい。「資料」が充実している。TAB譜が紹介されていることで、五線譜が苦手な生徒もギターの演奏に抵抗感少なく取り組むことができる。また、84ページには、リズム譜、ボディパーカッションの楽曲も掲載されており、音高を考えずにアンサンブルを楽しむことができる。40ページをご覧いただきたい。箏の学習では、「六段の調」が掲載されているため、鑑賞教材と関連付けて学習に取り組むことができる。また、唱歌が示されているため、学習を進める上で音楽の特徴を感じ取りやすく、楽器の演奏だけでなく、実感を伴った深い学びにつながることが期待される。

なお、教育出版社については、楽曲に関する資料が多く掲載されていて、イメージをもって歌唱活動に取り組める、器楽の巻末のギターのコード表が写真を使っているため、実際の指の形がわかってよいという意見があった。
以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(菅沼委員) 中学校でギターを扱うことはあるか。

(「音楽」説明員) はい。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、音楽一般・器楽合奏の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、音楽一般・器楽合奏の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、美術について報告を求める。
(「美術」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに報告と検討を行い、「光村図書」がもっともふさわしいと判断した。理由については、まず内容面において、題材ごとに視点が書かれ、導入のための映像コンテンツも豊富であり、生徒が学習す

る意義等を理解した上で取り組めるようになってきている。また、日本の絵画では紙面に和紙を使うなど、教科書全体に渡り、彩り豊かに作られており、作品本来の色彩が感じられる。大きな特徴として、「みんなの工夫」では、生徒の発想や主題の追求の手掛かりになるよう、制作段階ごとに生徒の言葉で思考が表現され、親しみやすく作られている。色彩や形といった造形要素を重視する美術科では、より本物に近く、美しい色彩で目を引く図版が充実していることは重要なポイントである。また、制作段階ごとに発達段階を考慮した発想や主題の追求の手掛かりとなる表現が使われていることは、生徒の主体的な学習の充実につながると考える。

なお、開隆堂については、表紙の特徴に加え、思考や制作の過程が明確に表記されており、自らの主題設定や見通しをもった活動がしやすく作られている。また、自分らしい発想を表現する力を身に付けるための「表現・鑑賞」の題材が多数掲載され、幅広い中から題材を選択することができる。

日本文教出版については、アーティストやデザイナー、著名人の言葉を取り上げており、美術が社会とつながっていることが理解しやすい内容となっている。また、美術1、美術2 3上、美術2 3下の三冊構成で3年間の発達段階を踏まえた構成となっている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(松山教育長) 質疑がなければ、美術の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、美術の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、保健体育について報告を求める。

(「保健体育」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに報告と検討を行い、「東京書籍」が最も適当であると判断した。巻頭の口絵や章末資料では、今日的な課題に関わる内容を多く扱うとともに、健康やスポーツを多面的に捉え、多様なスポーツライフの在り方が学べるように工夫されている。各単元を見ると、はじめに学習課題が提示され、思考する内容が明確にされている。そして「本文・資料」「活用する」「広げる」と1時間の流れが分かりやすく、生徒が主体的に思考・判断し、話し合いにもつなげやすい構成になっている。また、各ページに二次元コードがあり、画像や動画だけでなく、消費カロリーの計算や危険予測のシミュレーションができたり、直接入力できる思考ツールが利用できたりと、デジタルコンテンツが充実し、生徒の興味・関心を高め、思考力・判断力・表現力を効果的に働かせるような活用が可能である。巻末のスキルブックは、実習で使いやすいように「心肺蘇生法」や「リラクゼーションの方法」などが、二次元コードで読み込める動画解説とともにまとめられており、活用しやすい。全体的には、図やグラフが淡い色で、配色が落ち着いた。また、文章の横に資料が提示されており、参照する際の視線の動きが少なくなる工夫がされている。資料が精選されバランスがよく、二次元コードによるコンテンツも充実した教科書であると思った。

大日本図書は、「やってみよう」や「話し合ってみよう」の活動で生徒が主体的・対話的な学びを展開しやすい構成になっている教科書だと思った。

大修館書店は、各学年で重要な内容について、見開き2ページで扱われていたり、今日的な課題を発展的に扱うことができるページが設定されていたりしており、生徒の興味・関心が高まり、理解が深まる教科書だと思った。

学研は、資料が豊富で、意欲的な生徒には、深く掘り下げたり、視野を広げたりと研究心をくすぐる教科書だと感じた。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(袴田委員) 心肺蘇生の方法というのがあるが、実際に授業の中で行うのか。

(「保健体育」説明員) 実習は必修になっており、実際に行う。

(袴田委員) 実際にAED等を使うということか。
(「保健体育」説明員) はい。本物は使用しないが、実物を見せたり、指導者によっては練習機を借りて行ったりしている。
(袴田委員) 消防署の方が教えることもあるのか。
(「保健体育」説明員) 出前講座などを利用して行うこともある。
(松山教育長) 他に質疑がなければ、保健体育の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、保健体育の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、技術・家庭の技術分野について報告を求める。
(「技術・家庭の技術分野」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「東京書籍」が最もふさわしいと判断した。理由としては、巻頭の「技術のめがね」と「最適化の窓」において、技術の見方・考え方が分かりやすい言葉で示されている。「技術のとびら」では、問題解決に取り組む中で生徒に必要な基礎的・基本的な知識や技術の仕組み、科学的な原理・法則などがまとめられており、「TECH Lab」では、製作で必要になる基礎的・基本的な技能についてまとめられている。「技術の匠」では、技術に携わる人を紹介し、技術による問題解決の工夫や技術に対する思いなどから、社会と学習とのつながりを意識できるようになっている。その他にも、個別最適な学びや協働的な学びにつなげられるように、デジタルコンテンツがとても充実している。
次に、教育図書である。各内容の学習過程を「技術を見つめよう」、「技術をいかそう」、「未来をつくろう」の3ステップで項立てて、段階を踏んで学習が進められるよう組織されている。また、各内容の題材例も豊富で、基礎的・基本的な知識及び技能を生かせる内容となっている。別冊「スキルアシスト」では、課題解決に向けた製作・育成を行う際に、基礎的・基本的な技能や安全に配慮した作業のポイントを確認し、自ら問題解決できる応力を育てるよう工夫されている。
最後に開隆堂である。各内容の冒頭には身近な製品における技術の見方・考え方を働かせて問題解決ができるよう工夫されている。問題解決の取組を構想したり、記録したりすることができる「学習シート」は教科書に書き込みできるよう配慮されている。さらに、技術分野の基礎的・基本的な知識及び技能を、科学的な根拠を伴って理解できるよう「実験」や「調べ学習」が設定されているという意見が出された。
以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。
(袴田委員) 教科書見て、PDCAサイクルとかフィッシュボーンとか、そういった企業で使われるような問題を解決するような手法も教えているのか。
(「技術・家庭の技術分野」説明員) 思考ツールについては、東京書籍の中には例の掲載がある。ただ、話し合いの中ですべて使用するのではなく、考えを深めさせる場面で使用している。
(松山教育長) 他に質疑がなければ、技術・家庭の技術分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、技術・家庭の技術分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、技術・家庭の家庭分野について報告を求める。
(「技術・家庭の家庭分野」説明員) 選定委員会において、研究報告書をもとに、報告と検討を行い、「東京書籍」が最もふさわしいと判断した。理由としては、ガイダンスの中に小学校の学習内容の振り返りと中学校の学習内容が示され、今後の学習に見通しがもてるようになってきていること。また、小学校とのつながりや発達段階に合わせ、生徒により身近な衣食住から学ぶことができるように配列されていることが挙げられ

る。「いつも確かめよう」のページでは、多くのイラストや写真を用いて習得したい基礎的・基本的な知識・技能が分かりやすくまとめられている。「学習のまとめ」では、各編で扱った用語の一覧があり、生徒自身が学びを振り返り、基礎的・基本的な用語や内容を確認できるようになっている。製作では、基本を押さえた上で生徒がオリジナルの作品を作ることができるように、学んだ知識を活用して解決策を構想しやすくなっているなどの意見が出された。

教育図書は、各編のはじめに、「自立度チェック」が配置され、生徒が今の自分の生活を見つめる場が設けられている。「学びを生かそう」のページでは、各編の学習内容をテーマにした「学習過程」が具体的に示され、見通しをもてるとともに、問題を解決する力が身につくように工夫されている。

最後に開隆堂である。ガイダンスの中で家庭分野における「主体的・対話的で深い学び」の具体例が示されており、これからの学習で目指すことをイメージし、「ひと」「もの」「こと」に関わる力を身に付けることができるように構成されている。また、「やってみよう」「考えてみよう」等では、生徒の実生活に即した課題や活動が示され、経験や知識を活用して自分の生活を考える内容になっており、深い学びが展開できるように工夫されているなどの意見が出された。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(質疑なし)

(松山教育長) 質疑がなければ、技術・家庭の家庭分野の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、技術・家庭の家庭分野の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、外国語について報告を求める。

(「外国語」説明員) 調査研究、検討した結果、光村図書の「Here We Go!」が最もふさわしいのではないかと判断をした。その理由は、大きく三つある。一つ目の理由は、2、3ページの目次のように、登場人物が修学旅行、卒業など中学校3年間の日々の生活を通して成長していく物語を中心に学ぶようになっている。登場人物の会話が身近に感じやすく、共感もてるストーリー展開となっているため、生徒が自分事として取り組むことができるのではないかと考える。二つ目として、他の教科書と比較して、「聞く、読む、話す、書く」の4技能のバランスが良いという点である。三つ目としては、学習者用デジタル教科書の内容の充実である。英語については、全ての中学生を対象に、英語のデジタル教科書を紙の教科書とあわせて提供する予定となっている。そのため、デジタル教科書の扱いについても重要となる。すべての教科書のデジタル教科書を調査したが、光村図書が、生徒にとって一番使いやすくないかという意見が多く出された。具体的には、音声の再生速度調節や字幕表示、「ろくおん」機能を用いて生徒の個別最適な学びを可能にしていたり、教科書のストーリーを映像化した実写ドラマが用意されているほか、活動内容に関連したスピーキングテストに取り組めたりできるよう工夫されていた。

他の5社について、説明する。はじめに、東京書籍の「NEW HORIZON」についてである。本教科書は、SDGsのような今日的な内容が盛り込まれており、日常生活と結びつけて英語が学習できるようになっている。内容の構成については、各UnitのPreviewで、本Unitで何を学ぶのか、目的や場面設定に工夫がみられる。また、各Stageで学習したことをもとに、Stage Activityで発表、紹介文、討論などアウトプットの活動があり、表現力を意識した構成となっている。

次は、開隆堂出版の「Sunshine」について。本教科書も、3年間を通して、SDGs17の目標のほぼ全ての項目に関連する題材が取り上げられている。内容の構成については、単元の「Tuning in」で題材の予備知識を習得し、各「Part」で題材内容について考え、「Review&Retell」で内容を整理し、「Action」で自己表現活動につながるようになっている。

次に、三省堂の「NEW CROWN」についてである。本教科書は、各単元で4技能5領域にわたる言語活動がバランス良く配置されている。内容の構成については、各単元

の最初のページの「Lesson Preview」や「Small Talk」では、身近なことについて、伝え合う場面が設けられている。「Goal Activity」に向けて段階的に学びを積み重ね、習得した技能を統合して、「Project」で総合的な英語力が習得できるよう工夫されている。

次に、教育出版の「ONE WORLD」についてである。本教科書は、多様な題材を通して広い視野をもち、現代社会の問題を自らの課題として考えられる生徒を育成できるような内容が取り入れられている。内容の構成については、単元の「Part」で言語材料を修得し、「Task」で自己表現活動につなげ、学期末に行う「Project」において、これまで学んできた知識・技能を活用できるよう工夫されている。

最後は、啓林館の「BLUE SKY」である。裏表紙にある「BLUE SKY World Map」では、扱う国を世界地図とともに掲載しており、生徒が諸外国に興味関心をもつきっかけとなるように工夫されている。単元の最初のページの「とびら」では、「Input」と「Output」の目標が明確に示されており、学習の見通しがもてるよう配慮されている。そして、単元の「Part」で目的や場面、状況を捉え、「Express Yourself」で自己表現する機会が設けられている。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(菅沼委員) デジタルコンテンツの話が最初にあったが、デジタル教科書とデジタルコンテンツとは別のものか。

(「外国語」説明員) 別である。1人1台端末があり、デジタル教科書は、教科書の内容がそのまま画面上で見られる。デジタルコンテンツの内容については、各教科書会社のホームページに掲載してある見本を見て、機能についての確認を行った。教科書会社によって差がある。

(菅沼委員) 教科書ではないが、ラジオ英会話の基礎英語が中学生にとってよいと思う。15分であれば、毎日の活動の中で、付属として活用するようなことはできないか。

(「外国語」説明員) 今回のデジタルコンテンツでいうと、例えば「Here We Go!」では、実写版の映像が流れるが、登場人物ごとにセットすれば、例えばAは音はなしで、BCは登場人物を出すことができる。この機能を使えば、Aの会話部分が練習できたり、今度はBの部分を使ったりと、自分で課題や方法を選んでできる工夫がされている。今までは学校でやることを指示して進めていたが、自分で選んで個別に勉強できるシステムが進歩していることが伺える。

(西川委員) 実際の授業の中で、紙媒体の教科書とデジタル教科書を活用しているのが、イメージが湧かない。生徒の学びを深めるために実際にどのように使用していくのか。

(「外国語」説明員) 今、中学校の授業では1人1台端末を活用して進めている。例えば画面等で、発音を練習したり発表したりするときは、それを見ながら行っている。

(西川委員) 現在もデジタル教科書を使用しているようだが、どのような違いがあるのか。

(「外国語」説明員) 光村図書の教科書は、デジタルコンテンツが充実しているので活用していけば、大きな成果が出てくると思われる。今後、教師用のデジタル教科書も与えられることになると思うので、活用の幅が広がる。

(西川委員) それによって、音声でもネイティブの発音を聞くことができるようになるということか。またそれは自宅でも見たり聞いたりして学習できるということか。

(「外国語」説明員) はい。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、外国語の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、外国語の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 続いて、道徳について報告を求める。

(「道徳」説明員) 「日本文教出版」の教科書が、最適だと判断した。その理由は、読み物教材に偏らず、キャプテン翼やハイキューなどの人気漫画を扱っており、魅力ある教材が豊富であること。生徒が実際の生活で直面しそうな問題を取り上げているため、自分事として考えやすい教材があること。また、いじめ問題に関連付けて、ア

ンガーマネジメントを体験的に学ぶ教材もあること。別冊のノートもあり、生徒一人一人が自分を振り返り、自分の成長を実感できること。などが理由である。

なお、東京書籍は、全学年で「いじめ」「生命尊重」をテーマとして扱っており、系統性・継続性のある学びができるという意見があった。

教育出版は、中学生が主人公の教材が多いため、生徒が自我関与しやすく、共感的に考えを深められるという意見があった。

光村図書は、豊富な読み物教材があり、教材を読んで、自分と対話することで考えを深める工夫がされているという意見があった。

学研は、「SDGs、多様性、キャリア」等、現代社会で注目されている教材を複数扱っており、未来を担う生徒たちに適しているという意見があった。

あかつき教育図書は、全学年に「はじまりの時間」という教材が設定されており、発達の段階に合わせたテーマにより、生徒の関心が高まるよう工夫されているという意見があった。

日本教科書は、教科書に付いているウェルビーイングカードを使うことで、生徒が「考え、議論」するきっかけをつくることできるという意見があった。

以上。

(松山教育長) 質疑のある方は発言をするように。

(山下委員) 道徳の授業は年間でどれくらい計画されているのか。

(「道徳」説明員) 35時間行うことになっている。

(松山教育長) 他に質疑がなければ、道徳の教科用図書の採択案について採決を行うがよろしいか。採択案を承認する方の挙手を求める。

(挙手全員)

(松山教育長) 挙手全員である。よって、道徳の教科用図書の採択は原案のとおり承認された。

(松山教育長) 最後に、本日配布した「別冊 教科用図書採択資料」は、この後、回収させていただき、事務局で処分させていただく。また、本日の決定事項については、採択期限が8月31日となっているので、それまでは口外しないようお願いする。本日の議事録についても、教科用図書の採択期限である8月31日を過ぎた後に公表することとする。

それではここで、暫時休憩とする。

(説明員退席)

(松山教育長) それでは審議に入る。議案第14号については、人事に関する議案ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定及び湖西市教育委員会会議規則第14条第1項ただし書の規定により、本議案の審議については非公開としたいと思いますが、これに異議はないか。

(異議なし)

(松山教育長) 異議なしと認め、本議案の審議については非公開と決定した。

(議案第14号 説明・質疑・採決 (可決))

本日の案件については、これをもって全て終了した。
これにて、令和6年7月湖西市教育委員会定例会を閉会する。

閉 会 午後4時38分終了